

2023（令和5）年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅰ期

国語総合（近代以降）（60分）

注意事項

1. 監督者の指示があるまで問題を開かないでください。
2. 問題冊子は16ページあります。ページの落丁、乱丁および解答用紙の汚れなどに気づいた場合は、無言で手を高く挙げて監督者に知らせてください。
3. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に氏名、受験番号をそれぞれ正しく記入してください。
4. 解答は、次の（例）を参考にし、解答用紙の解答記入欄にマークしてください。

（例）解答番号1に対して、⑤と解答する場合

解答番号	解答記入欄
1	① ② ③ ④ ⑤

5. 解答用紙に正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
6. 訂正箇所は、消しゴムできれいに消してください。
7. 解答欄には、関係のない符号や文字あるいはメモなどを記入しないでください。
8. 解答用紙を折ったり汚したりしないでください。
9. 問題冊子の余白部分は、適宜利用してもかまいません。
10. 声を出して問題を読んではいけません。
11. 不正行為について
 - ①不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ②不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が直接注意します。
 - ③不正行為を行った場合は、全ての科目が失格となります。
12. 気分が悪くなった場合は、無言で手を挙げて監督者に知らせてください。
13. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

(解答番号は 1) (39)

【一】 次の文章を読んで、後の問い(問1～8)に答えよ。解答番号は 1) (12)。

小説言語に特に関わりの深い、この指向的機能について、もう少しくわしく考えてみよう。この機能が(ア)発揮されるためには、メッセージの発信者(話し手)が受信者(聞き手)に対して、そのメッセージの素材内容にあたる何か、少なくともその一つの要素を指示(指向)しなければならない。漢字の(イ)字面からへんな誤解が生じそうだが、かならずしも指で示す(指呼する)必要はない。口で伝えてもよいのである。現代言語学は、そのとき言葉が何かを指示するはたらくきを「指向作用」(reference)、『指示される何かを「指向対象」(referent)と呼んでいる。

われわれの日常の言語伝達は、この指向対象なしには進行しない。わたしはごくたまに勤め先の同僚と草野球をすることがあるが、そんなときよくこんな会話が交わされる。

A 「今度の日曜に野球やらんか」

B 「いいよ。どこで」

A 「十時に、いつものグラウンドだ」

これだけで、充分意味が通じるのである。「いつものグラウンド」は、某市某町のどこかに実在している。対話者A・Bは、あらかじめそれを了解している。指向対象とは、われわれの言語伝達が或る言葉によって指示する、言語外的な現実、に属する対象なのである。辞書にある「グラウンド」という見出し(ウ)調羹は、指向対象を持たず、したがってまた指向作用もない。【I】

指向対象は、われわれが或る音声連続を耳にしたとき、反射的に頭に思い浮かべる概念と混同されてはならない。この音声連続はふつう「記号表現」(signifiant)、思い浮かべられる概念は「記号内容」(signifié)といわれる。(従来は、それぞれに能記、所記という訳語が当てられていた)。いま問題の指向対象は、この記号内容とはまったく別物なのである。a、あなたがたれから「キツネ」という言葉を、厳密に言えば、/kitsune/ という音声連続を聞いたと仮定しよう。あなたの頭には、或る一つの概念像が浮かぶ。それが記号表現/kitsune/とメダルの裏表のように結びついた記号内容、キツネである。この二つがいつしよになって、「キツネ」という言葉ができている。b 発信者はこの言葉を使い、頭の中の概念像(キツネC)を音声に托して、受信者であるあなたに(エ)類似の概念像(キツネ、C)を思い浮かばせる。c、これはまだどこのどのキツネでもない。つまり、Aなら言語外的な現実に属するキツネではないのである。

【II】

さてそれならば、われわれの使う言葉のうち、こうした指向作用が可能であるのはどのようなものだろうか。まず文句なしに与えるのは、固有名詞。「ぼくはきのう甲子園で野球を見た」の甲子園がそうである。次に、限定された名詞。前の会話の中での「いつものグラウンド」。また、「あの鎮守の森にいるキツネ」でもよい。第三に、「ほら、あそここの檻のキツネ」のように、指呼行為を（オ）伴って示される名詞。第四に、たがいに了解された人物や事物についていわれる「彼女」とか「あいつ」とか「それ」とかの代名詞。要するに、文脈（コンテキスト）によって特定された（注1）実詞および実詞相当の語句であるといえるだろう。【III】

小説が発発するためには、どうしてもこの実詞群、（d）なかんずく、固有名詞が与えられていなければならない。もともと、たとえば（注2）漱石の『猫』は、「吾輩は猫である。名前はまだ無い」とはじまるのであるが、これには苦沙弥先生の家の飼い猫という限定がついているから、右の基準にしたがって、固有名詞相当と見なしてよいだろう。小説言語の指向作用にあつて、つねに決定的な役割を果たすのは固有名詞である。それは作中人物として作者の虚構の指向対象であるばかりではない。小説のタイプによつてちがいはあるが、それはまた同時に、みずから指向作用の主体になつて次々と指向対象を作り出し、作中世界の行動半径をひろげてゆくのである。【IV】

小説テキスト中に現れる指向対象が、作中の「現実」には属していても、ほんとうはすべて言語内世界の指向対象であること、いわば指向的虚像であることは、こうした言葉づかいこそしなかつたが、もうさんざん、e ほどいつてきた。読者もさぞ聞き飽きたことだろう。だが、あとは最後の詰めが残っているだけである。

「あれに、よい使者が参つた。敦賀への言づけを申さう。」

五位は利仁の云ふ意味が、よくわからぬので、怖々ながら、その弓で指さす方を、眺めて見た。元より人の姿が見えるやうな所ではない。唯、野葡萄か何かの蔓が、灌木の一むらにからみついてゐる中を、一疋の狐が、暖かな毛の色を、傾きかけた日に曝しながら、のそのそり歩いて行く。——と思ふ中に、狐は、慌ただしく身を跳らせて、一散に、どこともなく走り出した。

（芥川龍之介『芋粥』）

作者の芥川龍之介は、或る様式化された言表行為の「場」（原拠の『今昔物語』について読者に語りかける）から、架空の指向作用（作者は平安の昔にはいない）をもつて、貧乏公卿の五位と権勢ある武士、利仁とをはじめに対象化している。ところが、右のテキストからすぐわかるように、今度は、Bこれらの固有名詞たちが新たな指向作用によつて、別の対象を指示しはじめるのである。たとえば、文字通り弓で指呼されるキツネ。われわれ読者は、作中の五位の視線をたどつてこのキツネを見る。特に、「野葡萄か何か」という表現は、この対象があまり自然に親しんだことのない五位からまず見られていることの明白な（注3）証跡である。

このように、小説言語にあつては、作中の「現実」を織りなす対象への指向と見えるものは、

すべて言葉による言葉の虚像の提示である。そのかぎりで、いわば指向的機能の役を演じている詩的機能の作用である。

(野口武彦『小説の日本語』より。本文中に一部省略・改変したところがある。)

(注)

- 1 実詞——単独で意味を有している単語。
- 2 漱石の『猫』——夏目漱石の小説作品『吾輩は猫である』のこと。
- 3 証跡——証拠となる痕跡。

- 問1 傍線部（ア）～（オ）の漢字の読みとして最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。
- | | | | | | |
|-----|--------------------------------|--------|--------|-------|--------|
| （ア） | <input type="text" value="1"/> | ① はっせい | ② はつよう | ③ はつか | ④ はつき |
| （イ） | <input type="text" value="2"/> | ① じまん | ② じおも | ③ じづら | ④ じおもて |
| （ウ） | <input type="text" value="3"/> | ① ごく | ② ごぎ | ③ ごみ | ④ ごい |
| （エ） | <input type="text" value="4"/> | ① るいじ | ② るいに | ③ るいい | ④ るいけい |
| （オ） | <input type="text" value="5"/> | ① いぎな | ② あずか | ③ ともな | ④ したが |

- 問2 空欄 ～ に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- | | | | | | |
|-----|------|---|-----|---|-----|
| ① a | たとえば | b | そして | c | しかし |
| ② a | かりに | b | さらに | c | だから |
| ③ a | もし | b | しかし | c | そして |
| ④ a | なぜなら | b | つまり | c | ただし |

- 問3 傍線部（d）「なかんずく」と同じような意味を表す言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① むしろ ② とりわけ ③ すなわち ④ あるいは

- 問4 空欄 に入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 口がうるさい ② 口が過ぎる
 ③ 口が酸っぱくなる ④ 口が減らない

問5 傍線部A「なんら言語外的な現実に属するキツネではない」とあるが、筆者はどのようなことを言おうとしているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

① /kitsune/ という音声連続を聞いたとき、私たちの頭に浮かぶのはキツネという記号内容に過ぎず、現実存在するキツネではないため、どこどのキツネと特定できる指向対象を示すものとはなっていないということ。

② われわれが/kitsune/ という音声連続を耳にしたときに反射的に頭に思い浮かべる概念は、その人が属する文化内で共有されている一般的なものではなく、個人的なイメージに過ぎないということ。

③ /kitsune/ という音声連続を通して発信者が自分の頭の中にある概念像に近い概念像を受信者に思い浮かばせようとしても、指向対象のない音声連続である限りは、それはかなわないということ。

④ /kitsune/ という音声連続を通して発信者が受信者に思い浮かばせようとする概念像と、/kitsune/ という音声連続を聞いて受信者が思い浮かべる概念像が一致することはないということ。

問6 次の一文は本文からぬき出したものである。これに戻す位置として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

このように指向対象を指示する言葉を、言語学者たちはまた、外示的デノタテイヴ (denotative) な言語、外示言語とも呼んでいる。

- ① 【I】 ② 【II】 ③ 【III】 ④ 【IV】

問7

傍線部B「これらの固有名詞たちが新たな指向作用によって、別の対象を指示しはじめるとあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 『芋粥』において、はじめに五位と利仁を指向対象化したおかげで、その後は彼らを主体に対象が増えていったように、固有名詞を持った存在がいると自然と指向対象となる存在が生み出され、作中世界の行動半径をひろげていくということ。
- ② 『芋粥』での、はじめに指向対象化された五位・利仁と、派生的に対象となったキツネや野葡萄か何かの蔓との関係性からわかるように、作中に固有名詞を持った存在を登場させると、その周辺に指向対象となる存在が自然と生まれてくるということ。
- ③ 『芋粥』では、はじめに五位と利仁が、次いで彼らの目を通してキツネなどが指向対象となっているが、このように、固有名詞で登場する存在がいる場合には、作者が彼らの目を借りて、作中のあらゆるものを指向対象としていくということ。
- ④ 『芋粥』において、作者の虚構の指向対象である五位と利仁が、その後はキツネなどを指向対象としていつているように、固有名詞で作中に登場する存在は、やがてはみずからが指向作用の主体となって、次々と指向対象を作り出すようになるということ。

問8

この文章の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 指向対象とは、メッセージの発信者（話し手）があるメッセージを音声連続として送ったときに、その音声連続を耳にした受信者（聞き手）の誰もが反射的に頭に思い浮かべる概念にはかならない。
- ② われわれの使う言葉のうち、指向作用が可能であるのは、文脈（コンテキスト）によって特定された実詞および実詞相当の語句であり、これらの言葉は小説テキストの中において、作中世界の行動半径をひろげる主体となる。
- ③ 作中人物として作者の虚構の指向対象であるにとどまらず、みずから指向作用の主体になって次々と指向対象を作り出し、作中世界の行動半径をひろげてゆく固有名詞は、小説言語の指向作用においてつねに決定的な役割を果たしている。
- ④ 「いつものグラウンド」で会話が成立するのは、対話者A・Bの間で指示内容を限定できるだけの情報の共有が、過去において行われていたことを示しており、文脈の理解にはこうした指示対象の共有が不可欠である。

本を読み、他人の人生や判断を知ることができるのは大きいと思います。

雑誌や何かで（ア）ナヤミ相談を読むと、その答えは誰かがもつとちゃんと書いていたなあと思うことがあります。Aが千六百字で出した答えを、本を読んでいるBは八百字でそれは誰々がこう適確に書いていたと言い、残りの八百字でさらに自分の論を展開することができる。本を読んでもいけばそこからスタートできる。これはかなり大きなことだと思います。

文化は（イ）ケイショウしていけばいい。すべてをゼロから始める必要はない。先人達や他人の考えや経験を自分のものにする。読書によって知識、思考、視点を増やしながら、自分の人生と照らし合わせ実感を持ち、自分の考えを深めてゆくことができる。自力でパソコンを発明しようと思つたら、それだけで人生終わってしまいます。それまでの文化をケイショウしながら自分の考えを深めていきたいですね。

本の業界だけでなく様々な分野の人、例えばファッションの業界の人が本を読んだらどうなるんだろうなと思うんです。それはそれでおもしろい化学反応が起こりそうな気がします。ファッション業界の人達は本や言葉とは違う経験を（ウ）ツんで服を作っています。昔と今のトレンドを組み合わせながら思考しているでしょうし、服は形が決まっている人間が着るものでそこから大きく外れることはできない中でやっています。そういう環境で a している人が、例えば本を読んでもどう思うのか、作り出す服にどんな作用がもたらされるのかということには興味があります。

同じ分野で同じ能力を持っていても、本を読んでいるのと読んでいないのでは、A 下見に行っているか行っていないかという違いがあります。

『ゲーテ格言集』という（注）ゲーテの全著作の中から選ばれた格言集を読んだ時、もうこの人ほとんど全部言っているなあと思いました。これもあれも全部ゲーテは言ってしまったている。「人は子どもを大目に見るように、老人を大目に見る」と書いてある。本当にそうだなと思います。「きょうできないようなら、あすもだめです。一日だって、むだに過ごしてはいけません」とか、そんな身近なことまで言っている。全小中学生が親に言われるようなことです。こんな基本的なことを二百年前の人が言っている。ある意味、二百年前から人間の引つかかるポイントは変わらないのかもしれないという b 的な見方もできます。

本の主人公がこのように行動し判断し上手うまくいったからといって、僕達読者が同じことをしても上手くないかもしれないし、同じことをする必要はないと思います。ひとつの視点を持つるかどうかということです。

だから本を好きな人以外にも本は読んでもらいたいと思うんです。本は一回で理解できる人達

だけのためのもではありません。再読が許されています。一度買ったなら何度も読めるというのが本のすごく良いところだと思います。僕自身一回読んだだけじゃわからないんです。僕、趣味は読書と公言していますからたまに(エ)カシコいと(オ)カンチガイされるんですが、アホなんです。一回読んでなんとなく話を理解できても、もう一回読んだら全然違う話だと思ふことすらあります。本はまた戻ればいいのです。

読んでみたけどわからない本があった。でも他の本を百冊読んで、もう一度わからなかった本を読んだらまったく別の本のように読めた経験が僕にはあります。

(c) 夏目漱石の『それから』がまさにそうでした。僕は漱石を最初に『こころ』から読みました。それがおもしろくて、他の作品を読んでいく中で『それから』を読もうとしました。でも難しく読めなくて、途中であきらめたんです。その後漱石の『坊っちゃん』や『吾輩は猫である』、他の近代文学をいろいろ読んだ後に改めて、そろそろ読めるかなという気持ちでもう一度『それから』を読みました。そしたら、めちゃくちゃおもしろかったんです。

このことが僕の読書体験としてすごく大きなものになりました。B本をおもしろく読めないのは自分の責任ではないのでしょうか。

最初に読んだ『それから』は文字がすごく小さく感じた。言い回しも難しいし、これは最後まで読むのしんどいなあと思っていたのですが、他の本を百冊ほど読んで戻ってきた時、全然文字が小さくなかった。本に慣れたのでしょうか。近代文学の言い回しや表現に慣れた。理解できることが嬉しい。「おお、読めるぞ！」と興奮しました。そしてどんどん自分の中に言葉が入ってきた。情景が浮かんできました。

読書はこういうことがあるんだと思いました。そんな経験が一度あったので、もう本のせいにはできなくなりました。わからないことはおもしろくないことではないんです。簡単なことを難しくしたり複雑にする必要はないですが、複雑なことを簡単にして理解するよりも複雑なことを複雑なまま理解できた時の方がよりおもしろいと僕は思っています。

「簡単なことを複雑にするな」「複雑なことは簡単にしろ」と当たり前のように言われていますが、それでは複雑なものがかわいそうですよ。あらゆるパターンのおもしろいものがあっていい。複雑で難しい本に出会った時、僕は辞書をひきながら何度も読みます。正しく読めているかなんてわからないですが、そういう読書も楽しいです。本は一度買えば繰り返し読みます。しかも再読の方がおもしろかったりする。お得です。

(又吉直樹『夜を乗り越える』より。)

(注) ゲーテ——ドイツの詩人・作家・劇作家(一七四九〜一八三二)。

問1 傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それ

ぞれ一つずつ選べ。解答番号は 13 ～ 17。

(ア) ナヤミ 13

- ① 部屋が狭いのでシュウノウを工夫する
- ② ボンノウを断つべく修行する
- ③ 降雪のため都市のキノウが麻痺するまひ
- ④ あの日のことがノウリによみがえる

(イ) ケイシヨウ 14

- ① 人気車種のコウケイモデルが発表された
- ② ケイヤクの内容をもう一度確認する
- ③ 日本における神話のケイフをたどる
- ④ 業界大手の二社が技術テイケイを結んだ

(ウ) ツんで 15

- ① 出向先でジツセキを上げる
- ② 彼にはセキジツの面影がない
- ③ 赤字のルイセキが社の体力を奪う
- ④ 訃報に接し、アイセキの念に堪えない

(エ) カシコい 16

- ① 泣きたいのをケンメイにこらえる
- ② ケンキヨな人柄が人を引き付ける
- ③ ケンメイな判断が求められる局面だ
- ④ 当初の方針をあくまでケンジする

(オ) カンチガイ 17

- ① 職人の見事な手わざにカンシンする
- ② 外国からの観光客をカンタイする
- ③ 地域住民の都合をカンアンする
- ④ 市内をジュンカンするミニバスに乗る

問2 空欄 a に入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解

答番号は 18。

- ① 試行錯誤 ② 意気消沈 ③ 一念発起 ④ 換骨奪胎

問3 空欄 b に入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解

答番号は 19。

- ① 抽象 ② 樂觀 ③ 絶望 ④ 挑戦

問4 傍線部 (c) 「夏目漱石の『それから』は、漱石の前期三部作の一つとされるが、あ

との二作品は『三四郎』と何か。また、漱石の『三四郎』に影響されて書かれたとされる森鷗外もりおうがいの作品は何か。最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 20・21。

・夏目漱石の前期三部作 20

- ① 『行人』 ② 『門』 ③ 『夢十夜』 ④ 『明暗』

・森鷗外の作品 21

- ① 『鼻』 ② 『田舎教師』 ③ 『友情』 ④ 『青年』

問5

傍線部A「下見に行っているか行っていないかという違いがあります」とあるが、筆者はどのようなことを言いたいのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 22。

- ① 本を読んでいる人は読書をすることで知識を増やしているので、同じ分野で同じ能力を持っているように見えても本を読んでいる人と比べると、知識の量では明らかに差があるはずだということ。
- ② 本を読んでいる人が何かの折に参照するものは自分の経験のみであるのに対して、本を読んでいる人は、先人達や他人の経験を参考にしながら自分なりの考えを深めてゆくことができるということ。

- ③ 本を読んでいる人は、日ごろから読書を通して知識や思考や視点を深めているので、多角的な視点を持つことの必要性を知っており、本を読んでいる人よりも斬新な発想ができるということ。

- ④ 本を読んでいる人がその分野に何の予備知識も持っていないのに対して、本を読んでいる人は、あらかじめ読書によって下調べをすることができるので、何事にもうまく対処できるということ。

問6

傍線部B「本をおもしろく読めないのは自分の責任ではないのでしょうか。」とあるが、筆者がこう述べる理由の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

解答番号は 23。

- ① 最初に読んだときは難しすぎて途中であきらめた本でも、さまざまな本を読むことを続けているとおもしろく読める瞬間が訪れた自身の経験を思うと、自分が読書量を増やせば増やすほどおもしろく読める本が増えていくことになるはずだから。

- ② 初読時には難しさのあまり断念した本も、時を経て再び読んでみたときにはおもしろく感じられた自身の経験を踏まえると、本をおもしろく読めない場合は、自分が見た本のおもしろさを感じられる年齢に達していないだけだと思われるから。

- ③ 最初に読んだときは難しく感じて読み進められなかった本でも、時を改めて再び読んでみたときにはおもしろく感じられた自身の経験から、本をおもしろく読めるか否かは、その本を読むときの自身の気持ちのありよう起因することがわかったから。

- ④ 初読時に難しく感じて挫折した本であっても、読書経験を重ねたのちの再読時にはおもしろく読めた自身の経験から、本をおもしろく読めない場合は、自分がその本のおもしろさを感じ得るレベルに達していないだけだと考えられるから。

問7 この文章の内容・表現についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 24。

① 本を読むことのメリットを『ゲーテ格言集』の具体例をあげて説明したのち、夏目漱石の『それから』が自分の成長を実感させてくれたという筆者自身の読書体験を紹介して、本を読むことは自分自身を成長させるという主張を伝えている。

② 「ファッション業界の人」が本を読んだら、作り出す服にどんな作用をもたらすかを想像させるとともに、読書が趣味と公言する自分のことを「アホ」と述べることで、読書は本が苦手な人にとつてもメリットがあるという主張を伝えている。

③ 本を読むことのメリットを「化学反応」という比喻表現を用いて説明したうえで、自らの体験とからめて、再読が可能であるという本の性質を「お得」と表現することで、本を好きな人以外にも本を読んでもらいたいという主張を伝えている。

④ 雑誌の「ナヤミ相談」や、「同じ分野で同じ能力を持って」いる人の比較を具体例として本を読んでいると有利なることを述べたのちに、「複雑なことを複雑なまま理解」するためには、その本を何度も読むことが必要だという主張を伝えている。

三 次の問い（問1～11）に答えよ。解答番号は 25 ～ 39。

問1 次のア～ウの文の説明にあてはまる語句として最も適当なものを、後の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 25 ～ 27。

- ア 自由な行動を束縛するもの。 25
- ① 桎梏しごく
 - ② 暗礁
 - ③ 障壁
 - ④ 干渉

イ 心の中で深く恥じる様子。 26

- ① 忸怩じくじ
- ② 卑下
- ③ 自嘲
- ④ 恥辱

ウ 考え方や知識の間違い。 27

- ① 過誤
- ② 遺漏
- ③ 誤謬ごびやう
- ④ 蹉跌さてつ

問2 次のア～ウの意味を表す語句として最も適当なものを、後の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 28 ～ 30。

ア 二者択一。代案。 28

- ① オプション
- ② アノニマス
- ③ トランジション
- ④ オルタナティブ

イ 多種多様性。 29

- ① フェアネス
- ② ダイバーシティ
- ③ アクセシビリティ
- ④ ジェンダーレス

ウ 保存記録。保管場所。 30

- ① アーカイブ
- ② クロニクル
- ③ ドキュメント
- ④ コレクション

問3 次の各文のうち、敬語の使い方が正しいものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

- ① 「私は先生が夏季休暇時に描かれた絵をご覧になる。」
- ② 「私は先生が夏季休暇時に描きなされた絵をご覧になる。」
- ③ 「私は先生が夏季休暇時にお描きになった絵を拝見する。」
- ④ 「私は先生が夏季休暇時にお描きした絵を拝見する。」

問4 次の各文のうち、敬語の使い方が誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「ご意見を伺いたいと存じます。」
- ② 「どうぞ冷めないうちにいただいでください。」
- ③ 「先生のご著書を拝読いたしました。」
- ④ 「オンラインショップでもお買い求めになれます。」

問5 次の各文の傍線部の「だ」のうち、他と種類が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 赤い屋根の建物が目印だ。
- ② 古民家を改造したカフェだ。
- ③ 昔ながらの洋食屋が好きだ。
- ④ 何より大事にすべきは信頼だ。

問6 次の各文の傍線部の「の」のうち、他と用法が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① あの画家は色の使い方が巧みだ。
- ② 桜の咲く季節はなぜか心が躍る。
- ③ 都会の暮らしは華やかに映る。
- ④ 友人のありがたさが身にしみる。

問7 次の各文の傍線部の「ながら」のうち、他と用法が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 危機感を持ちながら何もしなかった。
- ② 音楽を聴きながらランニングをする。
- ③ 辺りに気を配りながら尾行をする。
- ④ 愚痴をこぼしながら作業を続けた。

問8 次のうち、慣用句の表記として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

- ① 肝に命ずる ② 実も蓋もない ③ ご多聞にもれず ④ 脂が乗る

問9 次の四字熟語のうち、「前置きなしに、いきなり本題に入ること」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 37。

- ① 急転直下 ② 快刀乱麻 ③ 電光石火 ④ 单刀直入

問10 次の四字熟語のうち、「人前をはばかりることなく、勝手気ままに振る舞うこと」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 38。

- ① 厚顔無恥 ② 傍若無人 ③ 言語道断 ④ 独断専行

問11 次のうち、故事成語「臥薪嘗胆」がしんしょうたんの意味として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 39。

- ① どんなことでも自分を磨く助けとなるということ。
② 忘れることができないほどの屈辱を受けたこと。
③ つまらぬ情けをかけて逆にひどい目に遭うこと。
④ 目的を達成するためにあらゆる苦難に耐えること。

2023年度 一般選抜Ⅰ期 国語 正答例

大問	解答番号	正解
㊦	1	④
	2	③
	3	④
	4	①
	5	③
	6	①
	7	②
	8	③
	9	①
	10	③
	11	④
	12	③
㊧	13	②
	14	①
	15	③
	16	③
	17	③
	18	①
	19	③
	20	②
	21	④
	22	②
	23	④
	24	③

大問	解答番号	正解
㊨	25	①
	26	①
	27	③
	28	④
	29	②
	30	①
	31	③
	32	②
	33	③
	34	②
	35	①
	36	④
	37	④
	38	②
	39	④